

生誕120年、没後50年 須山計一画伯講演会 人と作品



須山計一記念室ギャラリートーク

地元の偉人に
想いを寄せて

上山 小西 盛登

7月6日鼎文化センターホールで、鼎一色出身の画家須山計一さんの生誕120年、没後50年を記念した講演会が開催され、市美術博物館学芸員の小島淳さんから、漫画家、

洋画家、社会運動家等幅広く活躍された人と作品について伺いました。

代表作の東京美術学校の卒業作品「労働者」は当時プロレタリア芸術運動に傾注していた背景に触れながら、全国的に高い評価を得ていること。晩年は、山村風景作品が

多く、色彩も鮮やかになり、自然や故郷への愛着が作品に表れているとのことでした。

講演後は、鼎公民館2階にある記念室の展示作品を鑑賞し、色使いの変化を感じながら、地元の偉人に想いを馳せました。

(関連記事5面)

えんいぐどい

裁判をやり直しする再審で、今年8月福井女子中学生殺害で殺人罪に問われた前川彰司さんの無罪が確定しました。昨年10月には袴田事件の袴田巖さん。それぞれ逮捕から38年、57年もの長い時間が過ぎていました。そして再審請求中や準備中の事件も数多くあります。

何故えん罪が起こるのか。

今の裁判制度では、検察官は犯罪を証明する証拠だけを出し、被告に有利な証拠は未提出でよいなど、裁判官は限られた証拠の中で有罪かを判断することになり、間違える場合もあるわけです。

また再審請求決定されても検察官が不服申立てをすれば、再審公判が始まるまでに更に長い時間がかかることになります。

えん罪被害者を救うために再審法改正が強く求められ、全国で4割を超える地方議会が改正の意見書を採択、飯田市も昨年12月に行いました。また国会では超党派でまとめた改正案を野党6党で6月提出しましたが、継続審議となっています。

私達はいつえん罪に巻き込まれるかわかりません。改正が強く望まれます。(下茶屋 K・F)

熊古名

ねやねや、
夏祭り

名古熊分館長

小林真一

名古熊地区の夏の一大イベント「名古熊夏祭り」が8月10日(日)、盛大に開催されました。しかしながら、当日は早朝より雨天のため、公民館内、入口付近での雨天対応という形となりました。

屋台販売も始まり、子供獅子舞のオープニング、モンキーパフォーマンズ、バンド演奏、ビンゴ大会等々、雨天でしたが館内には人が途切れず、常に

「ねやねや」の状態でした。とりの仕掛け花火も見事に咲き誇りました。名古熊夏祭りは、地域の協力と熱意が詰まったイベントです。今年も各種団体、区民の皆さまのおかげで、子どもからお年寄りまで笑顔あふれる一日となりました。

一色

雨天の夏祭りとして
リスクマネジメント

一色分館長

西村伸吾

夏祭り前々日の会議は、熱気を帯びていた。重大な決断を迫られていたからだ。夏祭り当日の天気

8月10日(日)当日、11年振りの会場変更であった。予め計画した対応策

が大雨の予報となり、会場を一色神社境内から公民館に変更するための各種対応とリスク対応プランを策定した。子ども達の安全性確保と、楽しい思い出作りという2つの課題を両立させるための諸施策は多岐に渡り、我々の会議は3時間半に

及んだ。

者各位の協力を得て各所で臨機応変の工夫や対応が見られた。この難局を乗り越え成功させたいとの思いの一体感が醸成された。中学生ボランティアのサポートも奏功し、子ども達の笑顔溢れる夏祭りは成功裏に幕を閉じた。

分館活動

思い出の夏祭り



中平

突然の雷雨、大きな
虹の下での鼎の華

中平分館長

黒河内隆史

第9回中平区民納涼まつりを7月26日、鼎コミユニティ防災センターで開催しました。

特設ステージはバンド「越天楽」による演奏と歌で幕を開け、伊吹あいミュージカルスタジオの伊吹あいさんと小学生の生徒さんによる歌とタップダンスと続き、来場者も増え始め、屋台も盛況の中、ステージは小学生によるゲーム企画の最中、

突然の激しい雨と共に遠くで雷も鳴り、予定していたステージの催し物も流れ想定外でしたが、90分程の中断を経て東の空には大きな虹が架かるもとで、今年のメイン「鼎の華」を全員で踊り、最後は大抽選会で祭りの幕を閉じました。

下山

下山区納涼祭

下山分館長

水野和幸

今年の納涼祭は7月26日(土)に行われました。下山区の納涼祭は区の役員会が主催で公民館はお手伝いになりますが、協力し合い一丸となつて例年のように区民会館で行いました。一時は雨に降られましたが大盛況にできたとおもいます。

小中学校PTAの御神輿担ぎ体験、スイカ割り、紐クジ、商工会の富クジ、壮年団の模擬店等、それぞれの団体の皆さんに会場を盛り上げていただきました。開会式では親子太鼓クラブの演技、ステージ上では世にも不思議なマジックショーや妖艶な日本舞踊で、最後には花火大会、りんごを踊り締めました。反省点はあるけれども、区民の皆さんの楽しそうな姿に心を和まされました。地域のコミュニケーションの大切さを改めて感じました。

いいだ人形劇フェスタ2025 県地区公演 8/7~10



上茶屋フェスタ



中平フェスタ



切石フェスタ



あかりフェスタ

子どもたちの笑顔に包まれて

切石分館長

仲田 明

8月9日、飯田人形劇フェスタ切石公演として愛媛県から来られた「パペットステージぶか」さんによる人形劇が切石会館で上演されました。

猛暑の中、小学生以下のお子さん50名を含む、総勢100名を超える多くの皆さんにお越しいただきました。スタッフも演題に合わせたキャラクターの製作、夏らしいすだれや風船などの飾り付け、打ち水大作戦と、皆さんをお招きすべく前日から会場準備を行いました。

人形劇「大きなかぶ」「オーイおふろだよー」の公演、観客との参加型の演目もあり、会場は歓声と笑いに包まれ、大変盛り上がり、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

劇団さん、ご来場の皆さん、スタッフの皆さん、ありがとうございました。

ニュースポーツ講習会

体育委員長 渡部 益利

8月22日に県公民館にて、まだなじみのないモルック(室内版)を行いました。自分では私用で遅れて行ったら、思っていたより参加者がいました。

小さな子どもは、最初は恥ずかしがっていたけれど、お姉ちゃん



からだを動かすということは、健康にもつながるらしいです。こういったスポーツは、まだまだあります。いろいろ試してもいいかと思えます。ぜひご参加、ご協力をよろしくお願いします。

県地区縦断駅伝大会 結果

【総合順位】

- 1 位 切石分館
- 2 位 上山分館
- 3 位 上茶屋分館

【分館の部】

優勝 切石分館

【小学生の部】

優勝 県小キッズ

【一般の部】

優勝 健和会リハビリ



最高の時間

上茶屋レーシングCLUB



今回のかなえびと担当は上茶屋ということで自分達のグループを紹介したいと思います。活動して今年で3年目に入り、気が合う仲間とツーリングに出かけ満喫しています。この3年間で走った場所は下伊那の定番コースやビーナスライン方面など。長野県はライダーにとって憧れのスポットがたくさんありとても贅沢ですね。自然を感じながら人馬一体となり空気を切り裂いて走る爽快感はまさに最高の時間でリフレッシュされます。

また、今はツーリングに欠かせないインカムという便利な道具もありグループ同士で会話や音楽を楽しみ、

ナビも案内してくれるので意思疎通ができてとても安全運転に役立っています。

この上茶屋レーシングCLUBのメンバーは皆50代で日頃は区や公民館活動で忙しく、いつも一緒になり顔を合わせている内にできたグループでこれからも時間をつくっては仲間とツーリングに出かけたいと思います。

夏はとても暑くてライダーにとって過酷ですがこれからはバイクの季節ベストシーズン到来!

そして、自分達に合った乗り方で無茶をせず安全運転を心がけバイクも車も楽しく人生を過ごせていけたらいいな……。

(宮下正広)

かなえびと

No.60

編集後記

暑い夏が来ました。各分館役員や委員の方々が納涼祭、夏祭り、人形劇フェスタ、寺子屋にと文字通り汗だくで、獅子奮迅の活躍をされました。広報担当として、地域の行事を正確にお伝えしたいところです。

今号では、特集を追加。洋画家で風刺画、挿絵に

得意技は寄り切り

名古屋 関島 玄 大さん(2年生)



ぼくは、今すもうが好きです。松尾の相撲クラブに一年生からはじめました。おなじクラスの友達もいっしょにはいっています。稽古の中身は、すり足や、ぶつかり、はやいすり足、四股、まわし、ジャンプ、試合もし

ます。得意技は寄り切り、出し投げです。土俵やホールでやっています。好きなお相撲さんは、琴櫻、御嶽海、豊昇龍、大の里、照ノ富士、貴景勝です。目標は、今度の相撲大会で優勝したいです。あと年上の子に勝つことです。

みんなでご飯を食べにいったり、お菓子を食べるのも楽しいです。もっと強くなりたいです。

多才な芸術活動をした鼎出身の故須山計一氏「人と作品」講演会と作品鑑賞会の様子を紙上紹介しました。明治に生まれ、激動の時代へ、15年戦争を挟んで中央や県内画壇で活躍。晩年は故郷を愛し「藤村のいう血のつながるふるさとの姿を」と良質な絵画を現代に残されました。

(K・S)



No.134

特集 須山計一 生誕120年、没後50年

【関連記事1画】

多方面に
活躍した文化人

公民館長

笹 行夫

須山計一の人と作品を紹介する小島淳学芸員の講演には、鼎地区内外の50人近い皆さんが熱心に耳を傾けました。講演に引き続き公民館2階の「須山計一記念室」で行われたギャラリートークでは、講師や一色から参加された計一のご親族の方の思い出話などを興味深くお聞きしました。

計一は戦前の日本の



プロレタリア芸術運動の代表的画家とされ、社会主義や労働運動への弾圧が強まる中で逮捕・投獄され、保釈時には「転向」を余儀なくされるという「暗い時代」を経験しました。しかし計一自身は、飯田中学時代には詩や漫画を投稿し山に登り、画家となつては俳画など異なるスタイルも試み、一方で評論も多数著しています。広い興味関心と積



極的な実践で戦前から戦後の激動の時代を駆け抜けた自由闊達な精神の持ち主だったことが、小島さんのお話から浮かび上がってきました。

「須山計一記念室」では現在、故郷の山々をテーマに展示しています。

大叔父の
思い出

一色区長

須山一博

須山計一は、私の祖父の弟にあたる。祖父は若くして他界したために写真でしか顔を見たことも無いが、大叔父は私が子どもの頃、風景画を描きに実家である我が家に何泊か滞在することが時々あった。

そうすると祖母は夕食に魚の石持（腹に酒粕が詰まった物）や、塩イカの和え物をよく出していた。すると大叔父はダルマウイスキーをストレー



トで飲みながら、鼻の頭や頬を赤く染めて、描いた絵を襖に立てかけ親父や祖母に色々とよく説明をしていたことを思い出す。私はそんな時、特に話をするでもなく祖母の隣でただ話を聞いていただけであつたが絵ははつきりと覚えてる。

大叔父は風越山を描くことが多く、離れの裏から眺める風越山・萱垣坂の途中から眺める風越山など多数の作品を描いていたと記憶している。また、親父が車で南信濃の下栗や、木曾・大平宿・治部坂・駒ヶ根・伊那あたりまでよく乗せて行っていたようだ。大叔父は



晩年になって時々NHK教育テレビで現代マンガやゴッホ等の解説をしていた。実は、大叔父が亡くなった時も、数日後にテレビの収録を控えていた矢先だった。

今は鎌倉の瑞泉寺に安らかに眠っています。

